



堤 剛 (TSUTSUMI Tsuyoshi)

チェリスト
日本芸術院会員
サントリー芸術財団代表理事
サントリーホール館長
桐朋学園大学前学長

国際的に活躍する日本を代表するチェリスト。父の手ほどきでチェロを学び、故斎藤秀雄に師事。8歳でリサイタルを開き、15歳で日本音楽コンクール第1位・特賞。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）卒業後、インディアナ大学に留学。1963年には21歳で師シュタルケルの助手を務める。同年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位に輝き、本格的な演奏活動に入った。1965年インディアナ大学より「アーティスト・ディプロマ」。西オンタリオ大学准教授、イリノイ大学教授、インディアナ大学教授をへて、現在、桐朋学園大学特任教授（前学長）、韓国芸術大学客員教授、サントリー芸術財団代表理事、霧島国際音楽祭音楽監督、日本チェロ協会会長等を務めている。2007年9月より、サントリーホール館長。2009年、日本芸術院会員に選出される。2015年 公益財団法人日本演奏連盟 理事長に就任。

主な受賞は、鳥井音楽賞（現サントリー音楽賞）（1971年）、イザイ・メダル（ベルギー）（1973年）、芸術祭優秀賞、レコード・アカデミー賞（1980年）、モービル音楽賞、N響有馬賞（1987年）、日本芸術院賞（1993年）、中島健蔵賞（1998年）、紫綬褒章（2009年）、文化功労者 選出（2013年）、Thomas Hart Benton Mural Medallion（米国インディアナ大学）（2014年）、ウィーン市功労名誉金章（オーストリア）（2016年）、毎日芸術賞音楽部門（2017年）など多数。

録音の活動もめざましく「バッハ無伴奏チェロ組曲全6曲」、「ベートーヴェン：チェロソナタ全集」で数々の受賞歴を誇るほか、演奏活動60周年記念版「アンコール」（2010年）、堤の古稀を祝って日本の名だたる作曲家たちが書きおろした新作「アニバーサリー」（2013年）、「ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」がリリースされ絶賛されている。

著書に『私のイリノイ日記…チェロとともに』（音楽之友社）、『チェロを生きる』（新潮社）がある。